

聖女 の 献身

Devotion of the saint A wish of a saint Curse on the Devil Proctor's guidance The prince's in
Falseness of faithfulness Transformation magic Excellent entertainment A Wish of the
Presented by chaccu

成年
コミック

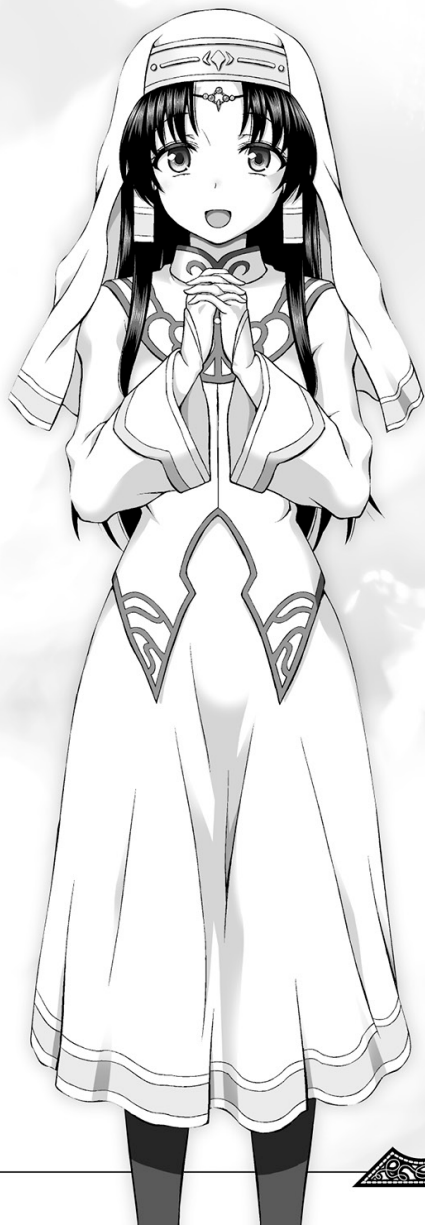
試し読み版

二次元ドリームコミックス

chaccu

CONTENTS

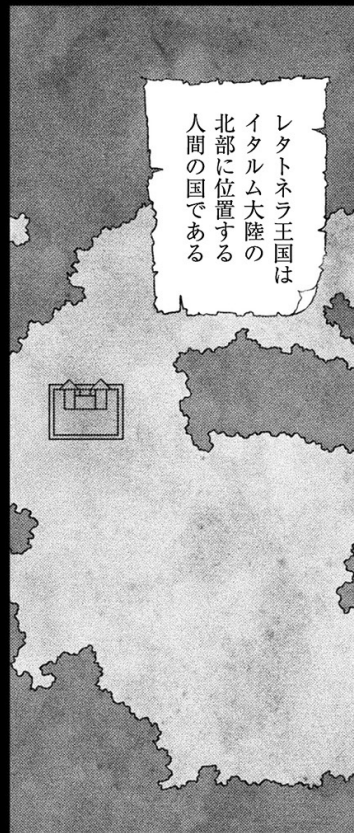
- 005 第一話 聖女の願い
- 027 第二話 魔王の呪い
- 051 第三話 娼婦の指南
- 075 第四話 王子の愛人
- 099 第五話 陸言の虚実
- 125 第六話 変容の魔術
- 151 第七話 極上の娯楽
- 177 第八話 勇者の願い
- 205 エピローグ
- 220 おまけページ
- 225 あとがき





かの国は突如
魔王が率いる
魔物の軍勢に襲われ
交戦状態にあった

互いの戦力は
拮抗しており
戦はいつまでも
続くかと思われた
が



レタトネラ王国は
イタルム大陸の
北部に位置する
人間の国である



突如その均衡は崩れ
戦況は人間側に傾いた

聖剣に選ばれし
勇者が現れたのだ









回復魔法をかけたので
少し待てば痛みも
引くと思います

勇者様の援護は
それからでも
遅くありません



……今の娘は
いったい？

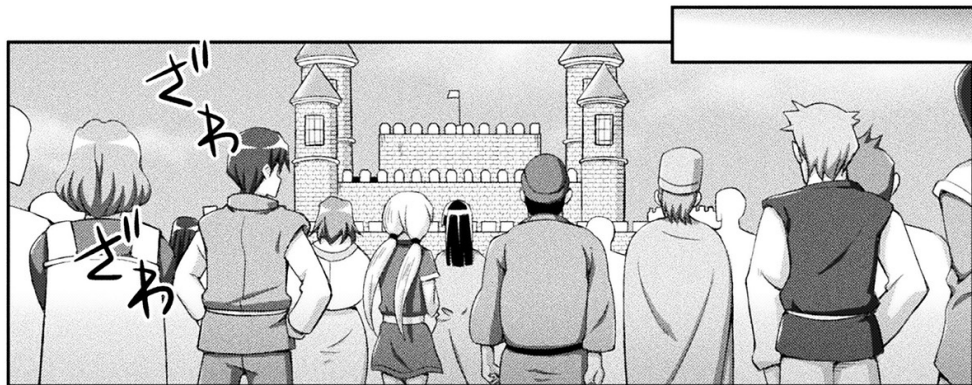
知らんのか？
勇者様と共に
常に最前線に立って
傷ついた兵士を
癒している神官さ



は〜とても戦いなんか
できそうもない細腕で
たいしたもんだ

最近じゃあ
聖女様なんて呼ぶ奴も
いるらしいぜ

はっ確かに
あの姿を見れば
そう呼ばれるのも
納得だ







町が希望と活気に
満ち溢れていました

ラライイを
聖女と讃える声も
だぶ増えたね

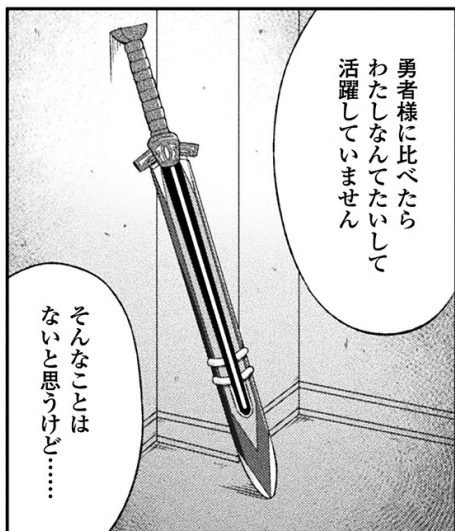


皆さん勝利を
とても喜ばれてましたね



君の活躍が正しく
評価された結果だよ
誇ればいい

聖女だなんて
恐れ多いです



勇者様に比べたら
わたしなんてたいして
活躍していません

そんなことは
ないと思うけど……





それじゃあ
そんな大活躍をした僕に
ご褒美を貰える？

え？
はい…わたしに
できることでしたら……



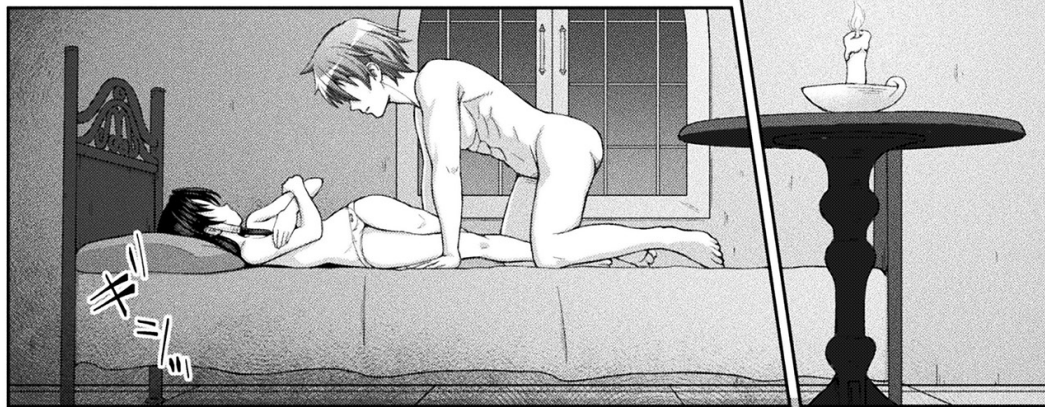
いいや
僕の方が嬉しい

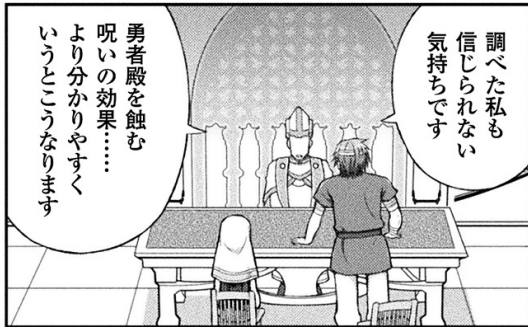
まあお互い
頑張ったんだから
どっちも嬉しいなら
ちようどいいさ

あう……



これだと
わたしの方が嬉しくて
ご褒美にならないのでは







第二話 魔王の呪い



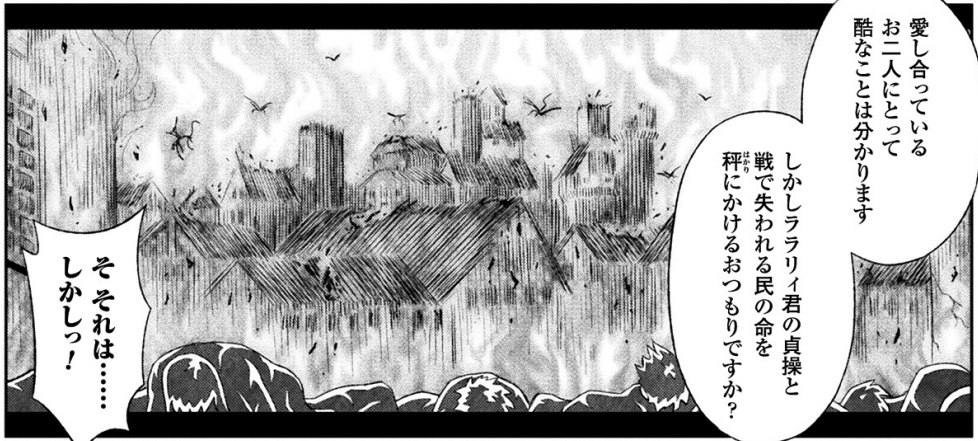
彼女に
好きでもない男に
抱かれると
いうのですか!?

娼婦の真似事をしると!?
そんなこと
させられるはずが……!



魔王の超魔力による
呪いを人間が解くことは
できません

つまり勇者殿が
今より強くなり
魔王を打倒するには……



愛し合っている
お二人にとって
酷なことは分かります

しかしラライイ君の貞操と
戦で失われる民の命を
秤にかけるおつもりですか？

そそれは……
しかしっ！



失礼するよ
ラライイ君

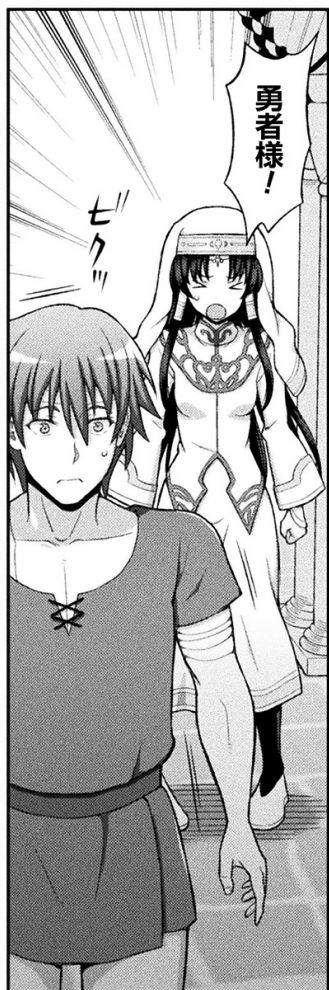
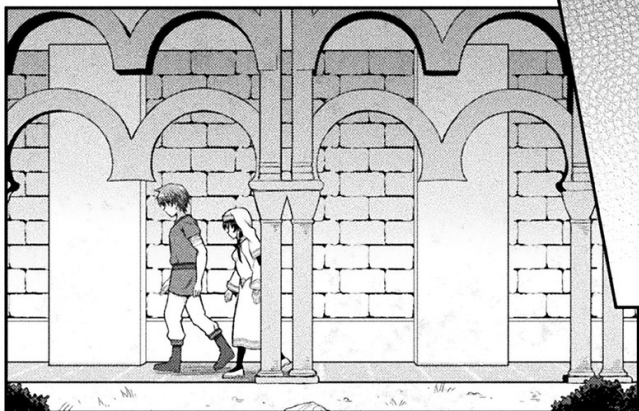
ハ
ア
マ
マ
マ
マ

あ……！

今かけたのは
やむを得ぬ事情でしか
使ってはならない
避妊魔法です

これで少しでも
お二人の苦悩が
軽減されれば
よいのですが

……





勇者様はまだ
聖剣に選ばれたばかりで
普通の人と大差ない
強さでした

それなのに必死に
魔物に立ち向かって
わたしたちを
救ってくれて……



勇者様が一番
嫌っている男性……
たぶん第三王子の
ビッグスン様ですよ？

！



ララリイ……



あのとき
勇者様の背中を見て
思ったんです

わたしもこの人のように
困っている人に手を
差し伸べられるように
なりたいて

……ああ
その通りだ

ビッグス王子は
戦時中の混乱に乗じて
悪徳貴族共と結び
私腹を肥やして
享楽にふけっている

戦争で疲弊している
この国と民を
ある意味魔物以上に
苦しめている男だ



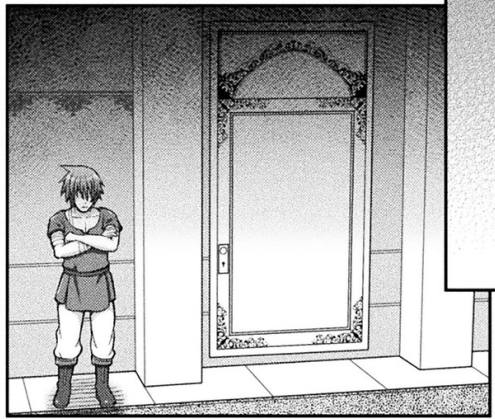
下手に罰すると
戦争中に国が割れるため
他の王族の方も手が
出せないでいる

君も彼には決して
近づかないように……

いいえ

わたし
ビッグス嬢に抱かれます







おつき...い...っ
ななにこれ

くふっかなか
よい締まりのマンコだ
褒めてつかわす

ハッ
ハッ
カキカキ



これ以上
されたらわたし……
わたしなんだか
おかしくなって
しまいそうで

馬鹿をいえ
女つてのはそういう
もんだらうが



存分におかしく
なればいいんだよ!

やあ

あ

あ

やあ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ



だめっだめっ
そこだめえ!

こんな
じゃあっ!

ああやだ
怖いよ勇者様っ
勇者様あつ!

あ

あ

あ

あ



力がどんどん
湧き出てくる……
まるで自分の身体
じゃないみたいだ



わたしにも分かりました！
勇者様すくく強くなっています

ああ

僕も彼女もどうして
強くなったのかに
ついては触れなかった

どう言えばいいか
分からなかったし
くすぐる暗い感情を
もてあましていた

これなら
きっと魔王にも
勝てますよね？



第三話 娼婦の指南



わたしはこの後
用事があるので
戻りますけど
勇者様は？

僕はもう少し
ここで身体を
慣らしていくよ

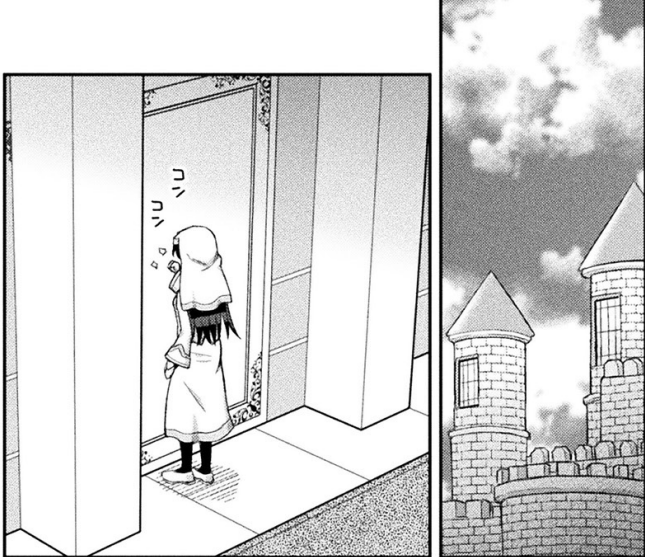


……はい！

奴に追いつけたかは
分からない……だが
きつと勝ってみせるよ



……この間の魔王は
全力じゃなかった



あゝあゝ

他の人の性行為…
初めて見ちゃった

……わたしも
情事ではこんな風に
乱れているんだろうか

で？今日は
いったいなんのようだ
聖女ちゃん

あっ
その……

どうした？
オレ様のチンポが
忘れられなく
なったのか？

ちがっ……

って否定しちゃ駄目だ
…のためにきたんだから

——違います
王子にだ抱かれたときの
ことが忘れられなくて
参りました



——思いつきり……
吸い上げる！

ぶぶついいいよいよー
聖女サマとは思えない
下品なフェエラ顔！

そのままオチンポから
精子全部吸い上げちゃえ！



よし射精すぞ！



口の中あふれるっ
溺れちゃうっっ





くくっ
初心者としては
頑張ったではないか

はーっ
はーっ
はーっ
はーっ



あっ!
吐き出しちゃダメ
ちゃんと飲み込んで!



わー
よくがんばったね
えらいえらい

うむ



プルプル
臭くて生温かいのが
喉に絡みついて...
気持ち悪い...
吐きそう...



ラライイよ
飲みきった褒美だ
情けをくれてやる

はーっ
はーっ
はーっ
はーっ

いきなりだとキツそうなら
オマンコに擦りつけて
濡らすといいよ

はい……

不思議……
身体はたるんでいるのに
ここは勇者様より硬くて
たくましいなんて

なに馬鹿なことを
考えてるんだらう……
ごめんなさい勇者様

入れます……

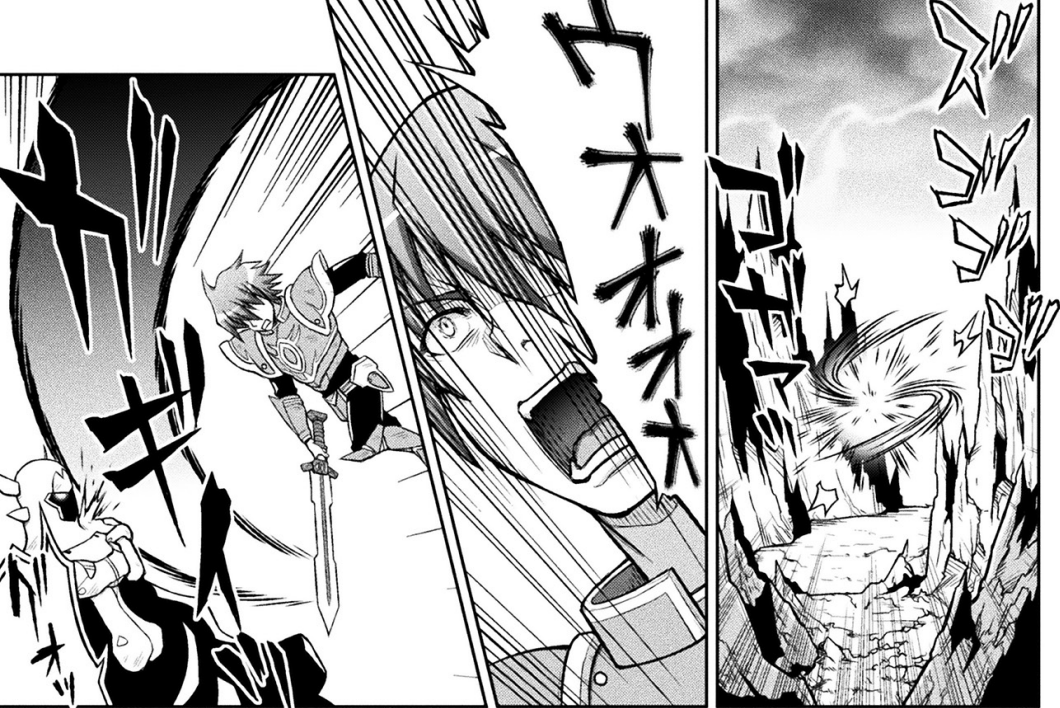
ふう
ふう


今度はラライイちゃんに
騎乗位のレッスンするから
ピグスン様はクニニして♡

ふん相変わらず
図々しい奴だ

~~~~っ！  
やっぱり  
大きい……っ

ポルポル





悩み嘆き苦しみ……  
それでもなお立ち向かって  
くる者こそ戦う価値が  
あるというものだ

## 第四話 王子の愛人

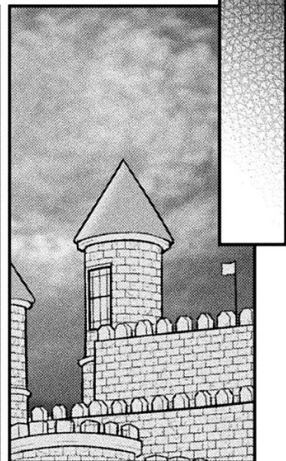






勇者の野郎は  
また魔王に負けて  
瀕死の重傷を  
負ったらしいな

……はい  
魔法でもすぐには  
癒せないほどの  
大怪我です



わたしの  
気持ちなんて無視しなきゃ  
大事なのは勇者様の  
お力になることなもの

あ、

ふう

そういえば噂で耳に  
したんだが――



なのに恋人のお前は  
オレ様とセックスか  
あいつ今どんな  
気分だろうなあ？

わたしがあれから  
後ろめたさを感じて  
王子との性交を避けた  
せいで勇者様は……

キョク



おお尻の中で  
形が変わって…  
動いて……！

ふんふん  
ビクニッ

ビクニッ

バタ

バタ

抜けるように！  
挟るように！  
舐め回すように！

ふ

ふ



これからオレ様に  
可愛がられるために  
毎日ケツ穴を  
開発するんだ

絶対抜くなよ

そんな？  
ずっとこんな刺激を  
受け続けるの？！

どろろ

どろろ

んっ

んっ



お顔の色も優れませんし  
あまり思い詰めない方が……

あああ……



すまないララリイ  
君に力を貰ったのにまた  
醜態を晒してしまった

そんなこと……  
勇者様は勇敢に  
戦われました



——気分が悪いのは  
あの声で目覚めたせいだ

呪いの効果で勇者の  
レベルがあがった！

呪いの効果で勇者の  
レベルがあがった！

だがそのことで  
ララリイを責められる  
はずがない



毎日お見舞いに来ます  
安静にしてくださいくださいね

そういう君も  
顔が赤らんで  
熱っぽく見えるよ  
無理はしないでくれ

あ……  
はい……っ

ぐず  
ぐず  
ぐず

治療師の話だと  
一月程で戦えるくらいに  
回復するみたいだ

ザムッ  
ザムッ  
ピク  
ピク

よかった！  
でも無理は禁物ですよ

あれ？  
神官服以外を着て  
いるのは珍しいね

ザムッ

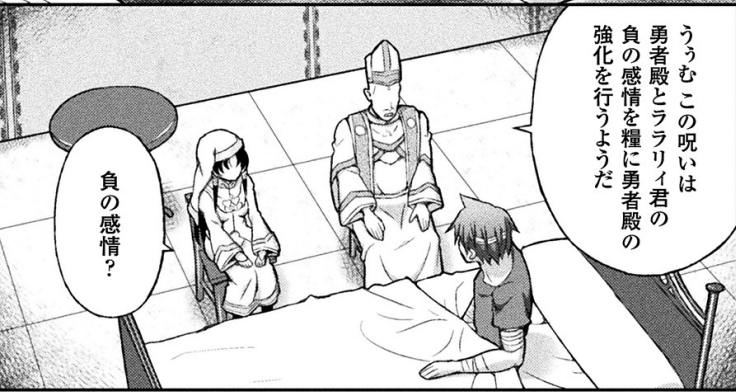
ズムッ

……少しでも  
勇者様の退屈を  
まぎらわせたらと  
思いました

ピク  
ピク



## 第五話 睦言の虚実



負の感情？

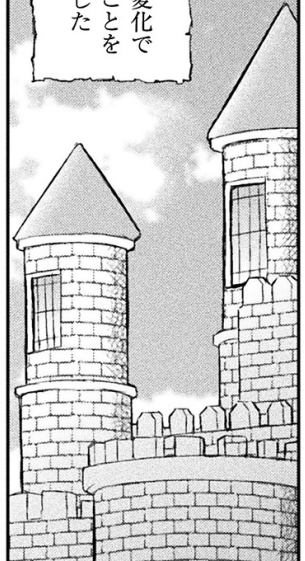
ううむこの呪いは  
勇者殿とラライイ君の  
負の感情を糧に勇者殿の  
強化を行うようだ

勇者は呪いの変化で  
力が低下したことを  
大神官に相談した



この負の感情が  
足りないとい呪いが反転し  
勇者殿が弱くなる  
仕組みになっています

怒りや嫌悪  
悲しみなどの  
好ましくないからぬ  
感情のことです



足は閉じるなよ  
腕は頭の後ろだ

はい

もじもじ

ドキ

ドキ

ドキ



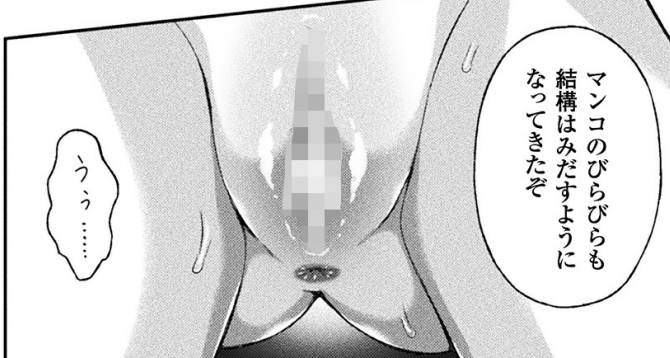
勇者くんは  
コイツの裸見るの  
久々だよなあ？



むじゅ

オレ様に  
弄られまくった乳首が  
少し黒ずんできたのが  
分かるか？

んっ



マンコのびらびらも  
結構はみだすように  
なってきたぞ

うっ……

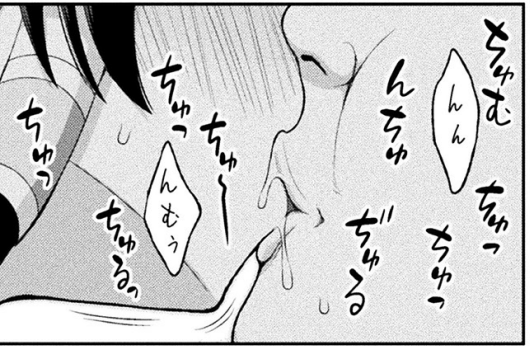


自分から舌を絡めて!?



……はい

くくっさあララリイ  
前に教えたとおりに  
やってみせる



胸が苦しいけど…  
なんだろっ…  
それだけじゃなくて……



ワナ  
ワナ  
全身の血の気が引いて  
頭がガンガンする  
またキスだけだっというのに  
最低の気分だ



そら挿入<sup>い</sup>ったー!

おめおめおめおめ

クワッ

クワッ



いくら濡れていても  
あんな大きいものを  
ラライの小さな身体に  
挿入<sup>い</sup>れたら……!



キツめだったマンコ穴も  
たぶりほぐしたおかげで  
いい感じに広がったぞ

クワッ

おめおめ



苦しいだ…け……っ!?

もっとも勇者くんだと  
少々ユルく感じるかも  
しれんがな



この続きは製品版をご購入の上、  
お楽しみください。

編集・発行

**株式会社キルタイムコミュニケーション**

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

**<http://ktcom.jp/>**